

和光大学地域連携研究センター
センター長 野中 浩一 殿

代表者氏名 半田滋男

研究プロジェクトの名称【 <input type="checkbox"/> 2023年度新規プロジェクト <input checked="" type="checkbox"/> (2019) 年度からの継続プロジェクト】							
* 上記にチェックしてください*							
和光大学と地域社会におけるアート							
研究目的 野外をフィールドとして、主に学生作品を展示することで、地域イベントとしてのアートプロジェクトを計画・実施し、その方法論の確立と、地域住民及び来訪者の意識にどの程度の変化が確認できるかを定性的に確認することで、アートと地域が出会う場を考察します。							
プロジェクト所属メンバー (氏名の右の欄に、本学専任教員=教、共同研究員=共と記入してください。)							
半田滋男	教	堂前雅史	教				
木村史紅	教	小林猛久	教				
倉方雅行	教						
平井宏典	教						

<p>プロジェクトの概要 (480字以内) (学内外に向けた分かりやすい表記で記載をお願いします。)</p> <p>2015年に始まった、サトヤマアートサンポは黒川地域を拠点に6年間続けられた。地域住民の評判も良く、学生の作品を毎年、田んぼや竹林に展示することが出来た。学生も日々努力をし、力作を展示し、学生自身の外界に向けた表現活動を意識させる教育機会にもなってきた。</p> <p>そして、2019年からは場所を大学のある岡上地域に移し、コロナ期の縮小体制を経たが、2022年度はさらに岡上町内会と営農団地管理組合、セレサ川崎農業協同組合等の協力も得られ、規模を拡大して開催することができた。2023年度にはスタンプラリーを行う、コンサートを開催、子ども教育課程の協力を得て地域の小学生対象のワークショップを開催するなど企画内容を更に充実させ、より大学・学生・地域住民・行政にも収穫が得られ地域に根ざしたプロジェクトとして認知度をあげつつある。</p>
--

研究活動の経過（800字以内）（打ち合わせ、報告、招待講演、調査旅行などの月日、テーマ、報告者、目的地などを記入してください。）

2023年4月企画作業開始。5月学生と初回打ち合わせ。以降、学内関係各教員と打ち合わせ。6月企画書原案作成開始。各ゼミごとに現地調査開始。7月作品計画作成継続。8月夏期休暇。8月31日地域住民を含む会合に出席。9月作品計画実施案作成。地権者と打ち合わせ。印刷物作成・広報活動開始。10月5日岡上町内会長と打合せ。作品プラン詳細修正。作品製作 下旬展示作業・公開へむけて設置作業。Webページの整備。更新作業。10月市民館岡上分館長と打合せ。10月9日町内会長と打合せ。10月17日岡上小学校と打合せ。11月10-11日作品現場での展示作業。同日サイン、看板設置。11月3日-15日作品公開期間。11月3日ワークショップ開催。11月11日コンサート。展示期間中、学生による作品ツアーを1回開催。また、スタンプラリー実施。展覧会終了後、作品撤去作業。12月 数次にわたって総括のための打合せ。2024年1月 連日記録集作成及び報告作成。2月連日記録集編集作業。3月1日記録集作成。

研究成果の概要（1000字以内・写真が複数ある場合は、600～800字程度）（どのような方法で調査、研究を行ない、どのような新知見が得られたか。またそれを今後どのように活かすことができるか、など）

活動成果は展示自体によって地域に還元することにある。

前回に引き続き、今回も活動を地域全体、ことに岡上を特徴づける営農団地に拡大し、全11作品を展示した。作品を鑑賞しながら地域を回遊的に散策することで、単なるアートイベントではなく、気候の移ろいや生態にも親しむことが出来るイベントとなった。

展示期間には、従来からお世話になっている地域の住民以外、従来付き合いのなかった地権者のかたがた、作業にいそしむ住民、毎朝決った時刻に散歩する住民、さらに地域外から岡上の風景を好んで散歩に訪れる人々などと会話を交したりする機会にめぐまれ、さまざまな見解を得ることができた。

また過年度にはなかった新規な試みとして、コンサート開催、ワークショップ開催があげられる。前者は、卒業生の世界的アーティスト山本和智氏の出演を得たが、瞬く間に満席となり、近郊農地の中にある温室中でコンサートという異例の状況は来訪者に喜ばれた。また、後者も多く参加者を集め、地域の教育に貢献するという新たな活動意義を加えることになった。

具体的な成果は視覚芸術=視覚によるものであるもので、年度末に刊行・配布した記録集に記載されている。記録集は、関係者、関係機関に配布する他、近辺では麻生区市民館岡上分館、本学図書情報館でも公開している。

成果の発表文献（標題、著者名、雑誌名、巻号頁、発行年等）

（発行年は厳密に2022年4月～2023年3月に刊行されたものだけに限らず若干前後のものも含めてください）

『サトヤマアートサンポ 2023 記録集』2024 和光大学地域連携研究センター
